（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

2024 年度（令和６年度）学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番　６２	福山市立大谷台小学校
	最終更新日	2024 年（令和6年）5月28日

Ⅰ　福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
○不登校児童生徒への丁寧な支援を引き続き継続してもらいたい。 ○地域の多様な人材を職業学習などの機会で活用してほしい。 ○交通安全や地域のボランティア活動など地域との連携を引き続き強化してほしい。	○「学校に行くのが楽しい」「安心して通っている」と感じている児童生徒の割合は 91.5%（校区平均）であり，安心・安全で学校に楽しみを感じながら登校している。 ○「目標や方法を選びながら学んでいる」や「考えること，学びが面白い」と感じている児童生徒の割合は 87.1%（校区平均）であり，選択・決定したり，対話をしたりしながら自ら学びを進めている。 ○「自分の考えがうまく伝わるように，資料や文章，話の組立てなどを工夫していましたか」と感じている児童生徒の割合は 63.2%（校区平均）と課題がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	○課題発見解決能力　○コミュニケーション能力（自己効力感） ○チャレンジ精神　○思いやりと感謝の心（地域貢献）
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○よりよく課題を解決し，自分の生き方に生かす ○互いを認め，よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる
中学校区として統一した取組等	○子ども主体の学びづくり（授業，児童生徒会活動，ボランティア活動など） ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGｓ「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実

Ⅲ　自　校

ミッション

人間性豊かに社会を生き抜く子どもを育てる

「創造」と「協働」

学校教育目標

学び　伸びる

現　状

＜児童生徒＞
○「学校が楽しい」答える児童は，それぞれ 92.3%であった。今後も，トラブルがあっても１日の終わりに納得して下校でき，保護者との連携を丁寧に行いながら，安心・安全な学校づくりを進める。
○「貢献活動ができている」「自己の努力したことや成長したことを実感できた」と答えた児童は，ともに 92.2%であった。具体的な貢献内容例示し，児童と共有すること，行事等の振り返りを継続して行っていく。
○「体を動かすのが楽しい」と答えた児童は，93.2%であった。委員会活動を中心に，週１回のロングタイム昼休憩で楽しく体を動かす機会や場を今後も設定していく。
＜授業＞
○「学んだことを生かしながら，自分の考えをまとめた」児童は 90.6%であり，これは年度当初と比較して 2.3%の伸びを見せた。しかし，「自分の考えが伝わるよう，資料や文章，話の組み立てを工夫して発表した」児童が 66.7%に留まり，これは昨年度に比べて 9.5%の減少が見られた。つまり，要約力の向上に課題が見られる。
○「自分で課題を立て，自分で決めた方法で学ぶことができた」児童が 89.7%であり，90%を下回る結果となった。このことから、プランニング方略の向上を図る必要がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		課題発見解決能力	コミュニケーション能力	チャレンジ精神（自己効力感）	思いやりと感謝の心（地域貢献）
めざす子ども像	５・６年	解決に向けて，主体的に選択・判断する	人の考えや気持ちを受け入れ，自分の意見や気持ちを表現する	結果の理由を次に生かしてやってみる	人や地域のためになることを考え，行動する
	３・４年	解決への方法を考え，見通しを立てる	人の気持ちを考え，自分の意見を理由をつけて伝える	得意なことも苦手なこともやってみる	人や地域のためになることを考える
	１・２年	もんだいにきづき，かだいをたてる	じぶんのかんがえやきもちをいう	もくひょうをもってやってみる	ひとやちいきにかんしゃのきもちをもつ

研究	テーマ	実感を伴った理解を深める授業づくり　～自ら挑む学習デザインと探究の循環を通して～
	主題・内容等	・自由進度学習に取組む単元の設定と授業づくり。 ・（新聞を活用するなどして，）自分の思いや考えを文章にまとめる場の設定。 ・学びや伸びを可視化する記録の蓄積。（大谷台ファイル） ・基礎学力の向上のための取組（大谷台カップ）
めざす授業の姿		・子どもが体験と学習したことを結び付けて考えを構築できるような授業 ・子どもが自己決定した方法で考えを書くための手立てがされている授業。

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立大谷台小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	子どもが主体的に学び合う授業の創造	★	継続	・実感を伴った理解を深める授業づくり	①自由進度学習など，課題や学習内容を自己選択，決定する場を設定する。 ②自分の思いや考えを文章にまとめる場を設定する。	・国語（思考・判断・表現），算数（知識・技能）において，学期末，学年末テストで80点以上の児童80% ・自分で課題を立て，自分で決めた方法で学ぶことができた児童アンケート８０% ・学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめられた児童・職員アンケート８０%									
2	個性と多様性の尊重と，自己肯定感を持つ子どもの育成	★	継続	・自己のよさや仲間のよさを感じることのできる子どもの育成	①人の役に立てる行動（貢献行動）をした児童・教職員を、ローズマインド賞で表彰する。 ②各行事でのめあての設定と事後の振り返りを実施し，キャリアログに記録する。	・貢献レベル4を達成したと回答する児童 貢献アンケート85%以上 ・自己の努力したことや成長したこと実感できる児童アンケート85%以上 ・学期に1回児童の貢献行動を見つけ表彰することができる 教職員アンケート100%									
2	自主性・自律性の育成		継続	・自主的に体力づくりや健康づくりに取組む子どもの育成	①児童主体で考える外遊びの場を設ける。 ②年5回の生活リズムチェックを実施する。	・体を動かすのが楽しい児童 児童アンケート　90%以上 ・生活リズムが整っている児童 チェックシート 75%以上									
2	子どもの学びを支え，信頼される学校の実現		継続	・安心・安全な居場所づくり	①児童に寄り添った積極的な対話と保護者と丁寧な連携を行う。 ②オンラインや別室での学習等，個々にあった学習機会を選択できるようにする。 ③児童が自分の好きなことや得意なことを披露する機会を設定する。	・学校が楽しいと答える児童 児童アンケート90%以上 ・子どもを安心して学校に通わせていると回答する保護者アンケート90%以上									
				・個性を発揮し，自ら挑戦する教職員	①教材研究日の設定により，教職員が自ら学び合い，高まり合う集団づくりを進める。 ②業務内容を目的や意義に着目して精選する。	・教職員間での学びや児童との学びの中で充実感を得られていると答える職員 職員アンケート90%以上 ・時間外在校時間45時間未満を100%									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。